# 幸樹

こう　じゅ


第 54 号

2019 年 9 月1日


ホームページ　　職員募集


発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……幸樹会事業所……

**からたち薬局・介護ショップからたち　☎047-710-2785**

**あんず訪問看護ステーション　☎047-701-5559**

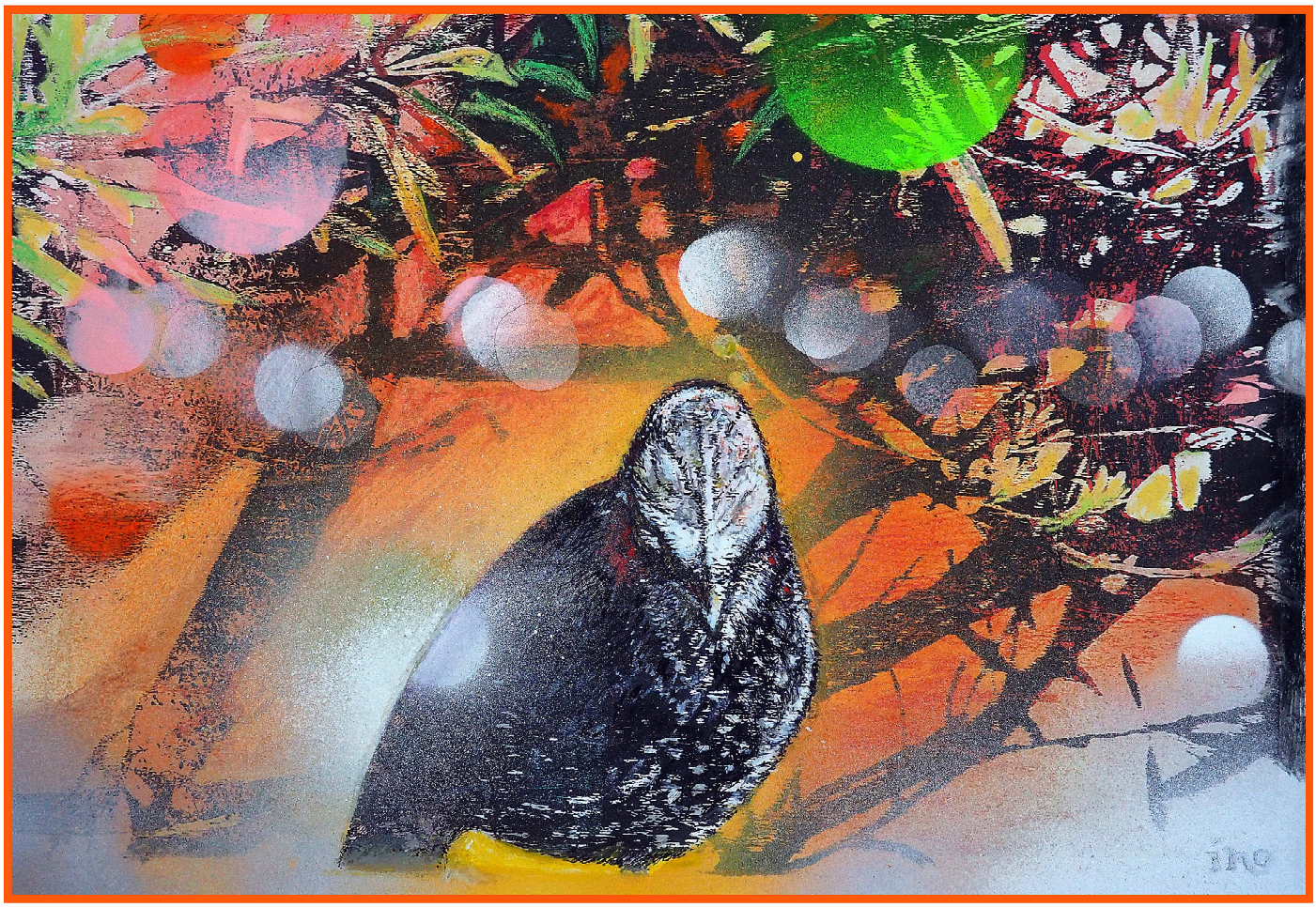
**あんず居宅介護支援事業所　☎047-701-5558**

**ケアステーションゆず　☎047-701-5506**

**看護小規模多機能型居宅介護さんしょう　☎047-710-0331**

**幸樹会本部　☎047-701-7550**

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館

**絵・井上　忠司**　　愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（ＡＤ）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10 年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

## 『あなたが教えてくれたこと』

**幸樹会のケア・看取りものがたり・「在宅看取りを語り、考える会」（勇美財団助成企画）報告**

*発行しました！*

幸樹会創設から 5 年、在宅ケア開始から４年がたちました。在宅で自分らしく暮らし続け人生を全うしたいという願いの実現を支援することと経営面では非営利を理念にして、未熟な私たちですが、利用者をはじめ関係者の皆様のご指導ご支援に学んで、今日まで事業を進めてまいることができました。このたび昨年から今年にかけて開催した３回の「在宅看取りを語り、考える会」の報告書を兼ねて各事業所が関わった在宅での看取りのエピソードを綴った小冊子を作成しました。ご一読いただければ幸いです。今後とも、在宅ケアの考え方と技術の充実・前進のための努力を続けてまいります。

# 第 22 回地域交流カフェ開催

**８月 20 日、第 22 回地域交流カフェ「夏まつり」を開催しました。利用者・家族の皆さん、高校生ボランティア、地元の皆さん、日暮７丁目町会・かぶと山町会・牧の原２丁目町会の代表の方々にもご参加いただき、さんしょうのリビングは、熱気と笑顔にあふれました。ご参加ありがとうございました。**

**ちょうど当日、地域医療研修で見学されていた研修医の山口悦朗医師からの感想をいただきました。夏まつりの様子も綴られていますのでご紹介します。**

# 利用者だけでなく、地域全体をケアの対象としていることを痛感

**東京医科歯科大学研修医２年**
**あおぞら診療所研修医　　山口　悦朗**

私は研修医２年目で、千葉健愛会あおぞら診療所（上本郷）で地域医療研修をしています。訪問診療とそれに関わる様々なサービスの勉強をさせていただいております。医師を志した頃より小児科の医師になる事を夢見ておりました。将来は地域医療を担い、大学病院と連携を取れるような医師を志しております。

今回は幸樹会の在宅ケアを見学させていただき、ありがとうございました。午前中は訪問看護の見学、午後は看護小規模多機能型居宅介護さんしょうのリビングでの地域交流カフェ「夏まつり」に参加させていただきました。

幸樹会では、０歳から１００歳までの利用者の皆さまへ在宅ケアを提供しているとお伺いし、どのような研修になるか心配しておりました。

午前の訪問看護では、ご高齢な方の血糖管理からデイサービスへのお見送り、小児の排便コントロールや入浴と、年齢による区別なく丁寧迅速な看護をされておりました。心配は杞憂に終わり、手際のよい手技や仕事ぶりに舌を巻きました。３年ほど前の学生時代に重度の障害がある医療的ケア児の家族受け入れ困難例に出会い、自分も遠慮気味に関わってしまったことがありました。今回の訪問で、同じような障害をもつ子どもが訪問診療・看護・介護などを受けながら在宅生活をおくっていることを見学させていただき、３年前と違って、非常に有意義なものとなりました。

午後は地域交流カフェ「夏まつり」に参加させていただきました。利用者や職員の皆さまも浴衣に着替え、とても涼やかな空気の中で夏の味覚を満喫させていただきました。焼きそばや綿あめ、ところてんやかき氷と様々な屋台が並んでおりました。独特な容器のラムネを初めて飲む子どもたちを優しい顔で見守る地域の方々が印象に残りました。

食を堪能した後は、模様替えを行い、リビングの真ん中に置かれた大きな和太鼓を囲んでの盆踊り大会です。恥ずかしながら盆踊りの振りを知らない私に、ご年配の方々、子どもさんが笑顔で振りを見せてくださいました。太鼓叩きも徐々に慣れましたが、子どもさんたちの力強い太鼓には勝てませんでした。

研修を通し、幸樹会のケアが対象とするのは０歳から１００歳までの患者・利用者の皆さまだけではなく、利用者家族の皆さまやその環境、さらにそれをも取り巻く地域全体を対象としていると痛感しました。

私は、勤務医として今後生きていくと考えていますが、患者の皆さまが退院した後の生活が様々なサービスとそれを支える方々の尽力により成り立っている事を忘れず、心に刻み込んでいきたいと思います。

現場の仕事のお忙しい中、お時間を割いていただきありがとうございました。

本庄　坦(ほんじょうひろし)さんにインタビュー

# 外を一人で自由に歩く夢

本庄坦（ほんじょうひろし）さん（72歳）は51歳という若さの時に、突然小脳出血に襲われました。それから人生が一転、辛い日々を過ごしながらも、前に向かって進もうと真剣な努力を続けています。その本庄さんにお聞きしました。

（聞き手・大塚かすみ）

本庄坦さんは、東京・向島生まれ。1歳の時、親の故郷である秋田へ両親と引っ越し、秋田では4人の妹が生まれ、5人兄妹の兄となりました。中学、高校と、野球に打ち込み、セカンドを任され、県大会決勝まで進みました。準優勝でしたが誇らしい思い出です。

中学時代に、両親と妹たちは再び東京に引っ越しましたが、本庄さんは野球を続けたいと秋田に残り、おばあちゃんと2人暮らしをしました。高校卒業後は、東京にあこがれ上京し、両親・妹たちと一緒に2～3年暮らしました。

飯田橋にある印刷会社に就職したのち、両親のもとを離れ、会社の寮に入り3年ぐらい働きましたが、その後清洲橋にある共立印刷会社に転職しました。

仕事は、雑誌・ポスターなど写真製版などがおもなもので、工場長も任され、30年近くまじめに働いてきました。会社にも野球チームがあったので、趣味として野球を続けました。ショートを守り、練習の他に、1か月に1、2回は試合も行っていました。

転職して間もないころ、会社のタイピストをしていた女性と26歳で結婚、2人の子供に恵まれました。2人とも男の子ですが、野球に興味をもつことはなく、長男は頭が良かったがプロレスに夢中、次男も野球に興味をもつことはなく、少しさみしい気もしましたが、それぞれの個性を大事にしようと野球を押し付ける気はありませんでした。

風邪をひいたこともないくらい元気に暮らしてきた51歳のある日、いつものように6時半ごろ帰宅、夕飯を食べ、ビールを2本飲んで寝ようとした時、突然、針を刺したような痛みに襲われ倒れました。救急車で搬送されました。病名は小脳出血。

そこから生活は一変しました。麻痺が残り、仕事を続けられる状況ではなくなり会社を退職せざるを得ませんでした。リハビリをかねて11カ所の病院を転々としました。途中退院もしましたが、自宅で転倒、左前腕骨折で再び入院ということもありました。結局、7～8年の入院生活となってしまいました。

一番辛かったことは、病気が原因で離婚に至ってしまったこと。障害を抱え、面倒を見てくれる人もなくなり、自分はどうしたらよいか途方に暮れ、死にたいと思いました。結局、誰かに頼るしかなく、実家の父母のいる松戸に身を寄せることとなりました。

すでに父母も亡くなり、現在本庄さんは72歳、一人暮らしを続けています。病気であること、障害があることを受け入れ、真剣に前向きに治療に取り組んでいます。訪問介護や訪問看護などのサービスを利用しながら頑張って自分の生活をつくっています。週3日通うデイサービスが楽しみで、この夏もテレビでの高校野球の観戦は欠かせませんでした。

「俺の半生は病院ときってもきれない人生。野球をやっていた自分が、家の中を歩くのさえ、ふらつくことが情けない。今一番の希望は外を一人で自由に歩けるようになること」

と笑顔で、希望を語ってくれました。

10月から

# 介護職員等特定処遇改善加算Ⅰを取得します

厚生労働省は、介護職員の処遇改善を進めるために、従来の処遇改善制度に加えて、10月から介護職員等特定処遇改善加算制度を新たに創設しました。これによって、勤続10年以上の経験・技能のある介護福祉士については「全産業平均の440万円以上（役職者を除く）」の年収になることを重点的にめざしています。

幸樹会は、新制度を活用して介護職員の処遇改善を進めるとともに、法人の経営努力による財源を使ってこの機会に全職種の処遇改善を実施します。

10月は、予定されている消費税増税に対応する診療酬・薬価・介護報酬改定が予定されています。皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

今月の屋上太陽光発電量は、

**1336KWh**

幸樹会館電力使用量 5994KWh　自給率 22.29%

# デンマーク便り…⑳

ラスムッセン　京子

北欧で注目されているのが従来のエネルギーをエコロジー（環境保護）・自然に優しい燃料に交換していく計画です。

デンマークでは、2018 年の 1 年間に 1, 545 台の電気自動車が販売されました。一方、同時期ノルウェーでは、46, 154 台が販売されました。ノルウェー人は、2018 年にデンマーク人の 30 倍の電気自動車を購入したことになります。

ノルウェーの専門家によると、ノルウェーで電気自動車を購入して運転することは、同様のガソリン車よりもはるかに安いという事です。水力発電の盛んなノルウェーは、自国の自然エネルギー電力によってよりクリーンなエネルギーに変換しています。46, 154 台ということは、ノルウェー国内で販売されるほぼ 3 台に 1 台の車がバッテリー駆動の電気自動車であることを意味します。

## 電気自動車販売

## ノルウェーはデンマークの 30 倍！

デンマークのラース・ルッケ・ラスムッセン前首相は、2030 年までに 100 万台の車を電気自動車に代えるという計画を打ち出していました。しかし、大規模な計画にもかかわらず、デンマークでの電気自動車の売り上げは伸びてしていません。世界の他のどの国も、ノルウェーのような高い売上高を示すことはできていません。自動車メーカーが十分な量の自動車を供給でき電気供給基盤ができていれば、その数字ははるかに大きかったでしょう。

デンマークで電気自動車を購入すると約 900 万円かかり、一般のデンマーク人の家計を圧迫してしまいます。それでも庶民には、電気自転車等がかなり普及するようになりました。街中でピッツァを配達するお兄さんが電気自転車を利用したりしています。他にも人気なのが電動スクターです。レンタルがあるので観光客に大いに役立っています。通勤通学に使う人も増えてきました（写真）。

## 第 18 回さんしょうの運営推進会議（8/20）報告

# 看多機の良さ広げたい

前回、介護職の声が聞きたいとの要望がありましたので、今回は西川智恵介護主任から、食事作りや入浴介助、事業所の環境整備、送迎、訪問、通い、泊の中での介護など様々な役割を担い利用者支援している現状を報告させていただきました。また法人の防災訓練（7/19）や、6～7 月の 5 名の看取りの方々の報告、9 月より要支援との認定を受け元気になってさんしょうを「卒業」される方の報告等をさせていただきました。初参加のご家族の方は、看多機を利用するようになって自分も余裕ができ、利用者ご本人が穏やかになったことなど話してくださいました。事業所の方々からは、自事業所の現状報告含め、看取りを支援することの難しさや、職員同士の連携などいろいろな意見交換をさせていただきました。今回は事業所様の参加が多く、貴重なご意見や取組、励みとなるご感想をいただきました。看多機の良さや必要性を伝えていきたいと思っています。

参加者はご利用者・家族の井上忠司さん、柴田美砂子さん、本田智子さん、大岡甫さん、三和病院ＭＳＷ・石橋朋美さん、東部地域包括支援センター・瀧口文子さん、高齢者支援ボランティアたんぽぽの会代表・鈴木道子さん、明音色「ゆいまーる八ヶ崎」・小林春代さん、ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｴｲｼﾞﾌﾘｰｹｱｾﾝﾀｰ松戸北小金・田鎖洋貴さん、ガーデンコート矢切・仮谷田論彬さん、看多機サポテン・乾憲司さん・東脇ゆう子さん、幸樹会職員 4 名の計 16 名でした。ご参加ありがとうございました。

## 八柱学習会

●前回報告 8 月 16 日（金）。助言者　武井幸穂氏

**「認知症ケア実践者研修」報告**

**あんず居宅ケアマネジャー・岩橋多恵子**

対象者についての的確なアセスメント、ケア目標の提示と他法人事業所とのケア連携によって、介護度は重くなったが、ご本人の周辺症状が改善との報告に高い評価がありました。参加者 15 人。

**▼次回学習会予定（「定例日：毎月第 3 金曜日）**

**●９月２０日（金）、１８：３０～**

**「認知症ケア実践者研修」報告**

**あんず訪問看護ステーション・大橋麻子**

**場所：幸樹会館２階会議室《参加自由》**


**職員募集！** 非営利・働きがいある職場

**看護師・介護職員**

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり

問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550